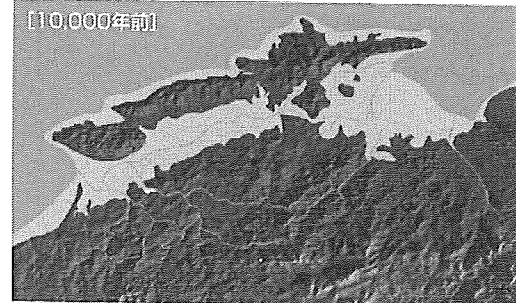


(1)松江周辺の地形

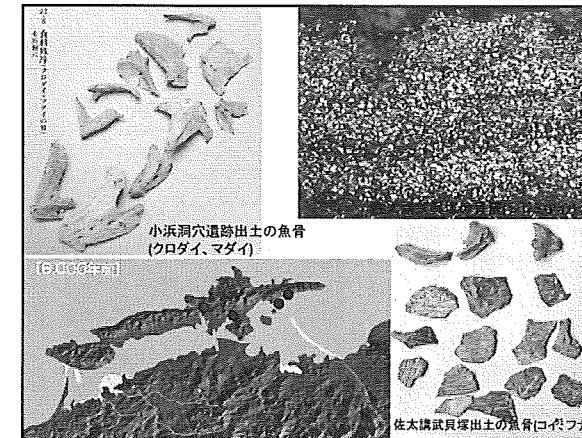
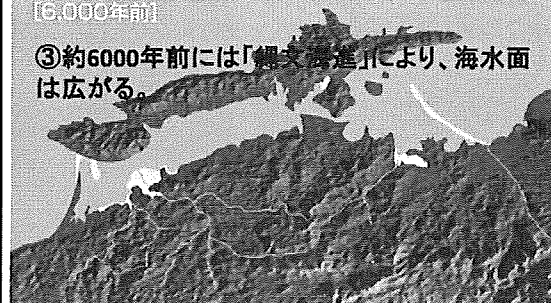
①縄文時代になると次第に温暖化→海水面上昇



(1)松江周辺の地形

②旧石器時代に谷川だった部分に次第に海水が浸入

③約6000年前には「縄文海進」により、海水面は広がる。



②内海が存在が促す水上交通、外界への進出

○静かな内海は、積極的な海への進出を促す。

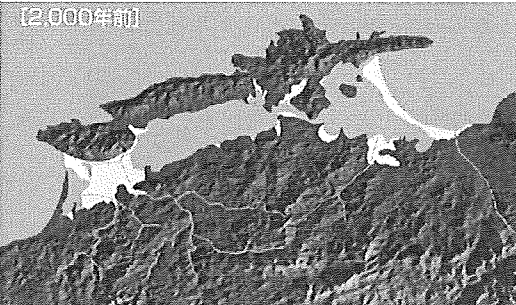
○隠岐の黒曜石の利用

○広域の交流

32

(1)松江周辺の地形

④弥生時代になると、川から運ばれた砂礫により、沖積地と砂州が発達



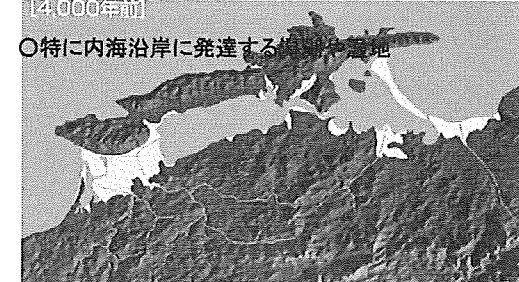
(2)縄文時代の松江周辺

①豊かな狩猟・採集の資源

○外界と内海(入海)の共存

○南北に連なる山地

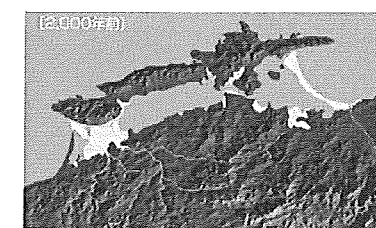
○特に内海沿岸に発達する潟湖や湿地



(3)弥生時代の松江周辺

①日本海交流の中での島根半島

②大きな潟湖に入れ子状に小さな潟湖



①日本海交流の中での島根半島

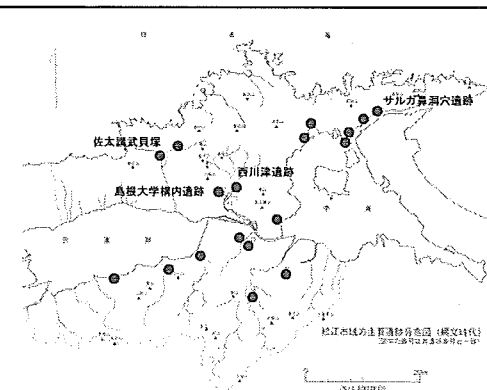
・水田稲作を中核とした新たな文化が、西から流入

・本州日本海沿岸では、西から航行すると最初の大きな入港できる半島が島根半島

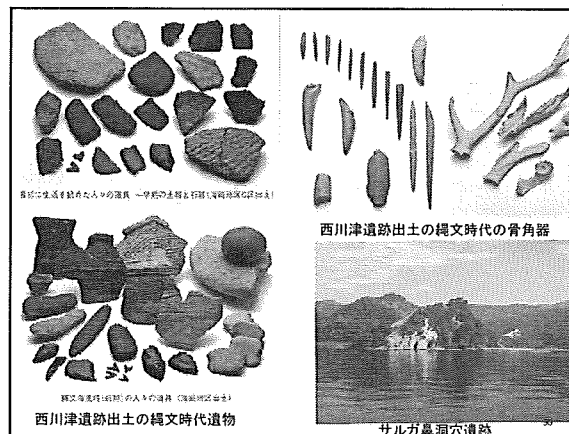
・西部の出雲市周辺や、古浦海岸が弥生文化流入の入り口となった。

・古浦砂丘遺跡や北講武氏元遺跡、堀部第一遺跡などの存在

34

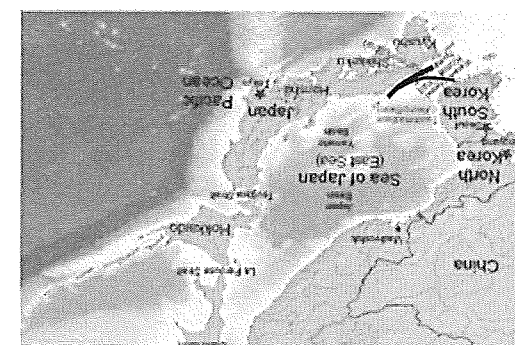


29



30

本州日本海沿岸では、西から航行すると最初の大きな入港できる半島が島根半島



②大きな潟湖に入れ子状に小さな潟湖

・中海・央道湖は東西に長い大きな潟湖(弓ヶ浜半島の形成)。

・その中に小規模な潟湖が形成される。

・潟湖の周辺に弥生時代前期の遺跡が形成

※北講武氏元遺跡、佐太前遺跡、西川津遺跡、布田遺跡

36

